

# 令和6年度 全国学力調査【算数】分析結果

## 【全体】

本校の平均正答率は、すべての設問で全国平均を大きく上回った。そのうち、全国平均を大きく上回った設問もいくつかあった。これからも既習したことを形式的に処理するのではなく、それらを生かした統合的・発展的な授業に取り組み、算数としての力をのばしていきたい。

## 【図形（領域）】

本校の平均正答率は全国を上回ったが、正答率が低かったことから、次のような課題が挙げられる。

- 立方体の公式を覚えていない
- 球の直径が立方体の辺の長さが同じということに着目する視点

## 【変化と関係（領域）】

本校の平均正答率は全国を上回ったが、正答率が低かったことから、次のような課題が挙げられる。

- 二人の歩いた道のりが等しいことに気付き、時間が短いほど速さが早いことと考え、それを根拠に式や言葉を使って説明する力

## 【データの活用（領域）】

本校の平均正答率は全国を上回ったが、正答率が低かったことから、次のような課題が挙げられる。

- 折れ線グラフから必要な数値を読み取る力
- データを整理する観点に着目させ、身の回りの事象について表やグラフなども用いて考察し、気付いたことを言葉や数を用いて説明する力

上の課題から、以下の改善策を意識して取り組む。

## 【改善策】

- どの学年も答えを導き出して終わりではなく、立式の意味を図や言葉を使って説明をする場を設けることで、説明力を高めていきたい。
- 球体を立方体の中に入れるなど、具体的な操作活動を取り入れて、確かめさせることで、その図形の意味や性質を実感し理解を深めることができるようにする。
- 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論を説明する場を設定したりする。